

会議録

1. 会議名	平成29年度 第2回出雲市子ども・子育て会議
2. 開催日時	平成29年8月9日（木） 15:00～17:00
3. 開催場所	出雲市役所本庁舎3階 大会議室
4. 出席者	<p><委員></p> <p>肥後功一委員（会長）、高橋恵美子委員（副会長）、原広治委員、勝部順子委員、重栖伸也委員、羽根田紀幸委員、坂根守委員、糸原直彦委員、高橋良介委員、飯塚勉委員、飯塚由美委員、林浩司委員、廣戸悦子委員、高橋悦子委員、原成充委員、西郁郎委員、三成重雄委員（順不同）</p> <p>（欠席：玉木満委員、福田貴之委員、周藤剛委員）（順不同）</p> <p><事務局></p> <p>子ども未来部長、子ども未来部次長（兼 保育幼稚園課長）、子ども政策課長、健康増進課主査、子ども政策課長補佐、保育幼稚園課長補佐、子ども未来部各係長 ほか</p>
5. 次第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>出雲市子ども・子育て支援事業計画の中間年における見直し（案）について</p> <p>(1) 事業計画の見直しにあたって</p> <p>(2) 人口推計の見直しについて</p> <p>(3) 【当初事業計画 第4章】5か年事業計画（量の見込み・確保方策）の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の学校教育・保育の量の見込みと確保方策 ・地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策 <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
6. 議事要旨	以下のとおり
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>子ども未来部長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に開催した第1回会議では、計画の見直しを行う事業と、見直しを行わず当初計画で最終年度まで継続する事業と、大きく仕分けを行う目的で、概要等を説明させていただいた。 ・本日は、見直しを行うとした対象事業について、現在までの状況報告をさ

	<p>せていただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改めた数値を示せる事業、今現在、関係団体と協議を重ねている事業、今後行うアンケート調査によりニーズを把握した後に数値が示せる事業など、各事業により進捗が異なっている。本会では、各事業について経過を含めて説明させていただく。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・委員 20 名中 17 名が出席であり、会議条例第 6 条により定足数を満たしている。本日の出席者については、委員名簿で紹介に替えさせていただく。 ・本会義は会議規則第 3 条の規定により公開で進める。議事録については、後日ホームページ等で公表することを了承いただきたい。 ・本日出席している事務局職員については、事務局名簿で紹介に替えさせていただく。本日の会議は、事業計画の中間見直しを中心に審議をお願いすることから、見直しに関係する部署の職員のみが出席している。 ・続いて、肥後会長からごあいさつをいただきたい。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・国では学習指導要領に基づく幼稚園教育要領や保育所保育指針と、教育として高い目標を掲げながら、今後 10 年間の事業計画がたてられている。 ・子どもの状況をめぐる様々な格差が大きくなっており、このことが教育格差にまでも繋がっている。 ・同じ出雲市に生まれながら大きな差があるということとならないよう、子どもの保育・教育をめぐる環境について、委員のみなさまから忌憚のないご意見をいただきたい。 ・本日は数字に基づく議論を行うが、それだけではなく、お気づきの事を多角的な視点から、子どもや子育て中の市民に真っ直ぐな意見をしていきたいと思っている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 の差し替え、追加で資料 2 と資料 5 - 1 をお配りしている。 ・会議条例第 6 条の規定により、肥後会長に今後の議事の進行をお願いする。
肥後功一会長	<p>3 議事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 1 回会議で見直しが必要だとされた事業について、順番に事務局から説明をお願いする。 <p>出雲市子ども・子育て支援事業計画の中間年における見直し（案）について (1) 事業計画の見直しにあたって【資料 1】 P 1</p>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲市子ども・子育て支援事業計画策定に係る経過や、計画の位置付けと目的について説明。 ・本年度において計画の中間見直しを行う必要性、その範囲を説明。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の見直しを行うにあたっては、この2年間の実測値が当初計画と大きく乖離があるものを対象にするといった説明であった。 ・確認であるが、人口推計と実際の人口がずれるのは当然の事であるが、どの程度乖離があれば見直しを行うという判断をされているのか。何か基準があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・増減率が何パーセント以上であれば見直しを行うといった基準は、特には設けて考えてはいない。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく違っていたら見直しを行うということであるのか。これから具体的に事業ごとに説明をいただく中で、確認をしていきたいと思う。 ・続いて、議事2 人口推計の見直しについてである。説明をお願いします。
事務局	<p>(2) 人口推計の見直しについて【資料1】P2、【資料2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1の2ページ中「計画見直し時の人口推計」は、平成29年度までの実績値に基づき、平成30年度以降を見直したものである。 ・前回会議の中で地域別の人口推計はどうなっているかという話があった。中学校区単位の年齢別・年度別推計を作成した。資料2をご覧ください。（推計値について、各種グラフによりその傾向を説明。）
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・出雲市全体の子どもの数について、当初の推計よりも子どもの減少幅が考えていたよりも大きくないということである。 ・見直しを行うということは、当初考えていたよりも子どもの数が少し高めで止まるということになり、それに伴い、各施策の数値について当初計画に対しては少し増加を見込まないといけないものもあるということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。主に出生数の影響であるが、当初見込みより増加しているため児童数総数が横ばいとなっている状況を、一つの要素として踏まえて見直しを行うということである。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数について、長期的に見ると徐々に減少していくという傾向は当初計

	<p>画と同じであり、決して増加傾向にはなっていないということも説明いただいた。これを踏まえて次の説明をお願いする。</p> <p>(3) 5か年事業計画（量の見込み・確保方策）の見直し</p> <p>○ 幼児期の学校教育・保育事業の見直し</p> <p>1号認定子どもに係る見直しについて【資料1】 P 3～9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園及び認定こども園について、平成 29 年度の実績値が当初計画値に対し約 13.9%の減となったことから、計画の見直しを行うこととした。 ・確保方策については、認定こども園の定員に若干の変更があったため、計画の見直しを行うこととした。 ・幼稚園関係について、当初計画時は1号と2号に分けて数値を計上していたが、実績としては概ね1号認定のみであり、また2号認定であるメリットもないことから、見直しにおいては全ての子どもを1号認定として量を見込んでいる。 ・量の見込みは、平成 29 年度の実績値に基づき、資料2の3～5歳児の人口推計を用い算出している。
事務局	<p>2号・3号認定子どもに係る見直しについて</p> <p>【資料1】 P 3～9、【資料3・4・5・5-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所等利用（2号・3号認定子ども）の量の見込みについて、当初計画では平成 27 年度以降減少を見込んでいたが、実績値は毎年度増加している。 ・推計人口は今後減少が見込まれているが、利用申込は平成 29 年度並みと見込んで、今後の量の見込みの見直しを行っている。 ・確保方策の見直しの考え方について、2号・3号認定子どもの数値については調整中としている。今後調整が必要と考えており、本日の会議では現時点の情報ということで説明させていただく。第3回会議で改めてお示しする予定である。 ・（資料5-1の説明）2号・3号認定子どもの説明。 ・量の見込みについては、各年度4月1日を基準日として、平成 29 年度の実績値に基づき、平成 30・31 年度の数値を見込んでいる。 ・確保方策の内、認可保育所・認定こども園については、本年6月に実施した定員変更等に関する意向調査の内容を反映している。 ・認可外保育所の確保量は、過去の実績値から推計をしている。 ・推計の結果、平成 31 年度（計画最終年度）においてニーズに対して確保量が不足しているというのが、現在の取りまとめ状況である。これに対して

<p>肥後功一会長</p> <p>坂根 守 委員</p>	<p>市としては、できる限り待機児童を出さないよう次のような対応を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3号認定子どもの1・2歳児について、平成30・31年度に確保量の不足が生じるが、同じ3号児童の0歳児の受入れ枠に余裕があり、年齢間の受入れ調整を図っていきたい。 ・ 意向調査の結果から、年度当初から定員の弾力化を活用すれば各年度の待機児童への対応ができると見込んでいる。定員の弾力化とは、施設の面積や人員に基準上の余裕がある場合に、定員を超えて受入れを行うことである。 ・ 計画上の確保方策は定員のことを言っているので、計画の最終年度においては、確保方策が量の見込みを上回っている必要が計画上はある。市としては、保育協議会を通じて、認可保育所・認定こども園と再度調整を行っていききたいと考えている。 ・ (資料5の説明) 網掛けをしている4施設が定員変更の意向を示されている。定員増員数を記載している。 ・ 市としては、中央保育所・直江保育所の公立2施設について、平成29年度当初の待機児童の状況を踏まえ定員増を検討と記載している。これについては、今後庁内の調整が必要であるため、本日は詳細にお示しできない。 ・ 私立及び公立の6施設で計70人の定員増を、平成30年度見込んでいる。 ・ 平成30年度の定員変更については、11月下旬から入所申請手続きが始まることから、市としては9月中に決定し市議会へ報告をする必要がある。本日の会議の内容を踏まえ、今後の調整を行った結果については、市議会への報告に遅れることなく、子ども・子育て会議委員に文書で報告したいと考えている。 ・ 計画の見直しについては、本日の会議のご意見を参考にし、平成30・31年度の計画値を再度調整し、第3回会議にお諮りしたいと考えている。 <p>・ 人口推計に基づく平成30・31年度の1～3号認定子どもの量の見込みと確保方策見込みについての説明であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この計画は全市的な合計値で考え策定している。各地域の状況も考慮して議論しなければならない。 ・ 全体値として定員不足が一定程度生じていることについて、年度当初からの弾力化によって対応するといった考え方をして良いか議論をお願いしたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30・31年度に定員不足が生じるから、年度当初から定員の弾力化で
------------------------------	--

<p>肥後功一会長</p>	<p>対応されるという説明であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松江市は 307 人定員増をし、平成 30 年度は待機児童を出さないと新聞に掲載されていた。出雲市は平成 29 年度に 78 人の待機児童が出ており、今までと比較してかなり大きな数値となっており驚いた。 ・出雲市は人口が増えているので、平成 30・31 年度も待機児童を出さないという気持ちで徹底して取り組まないといけない。できるだけ出さないようにということではいけない。 <p>・資料 5-1 で、平成 27～29 年度の実績値で定員不足が生じており、平成 30・31 年度も不足が生じ続けると推測されているのに、この対策で良いのかという議論になると思うが、この点についてどう考えているのか。</p>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育協議会、認可保育所（園）理事長会等と協議をしているところである。出雲市内において待機児童が集中する地域とそうでない地域があり、これを分析しながら待機が多く生じる地域にある保育所等の定員増について、理解を得ながら調整・検討をしていくこととしている。 ・平成 29 年度に 78 人の待機児童が生じたことに際しては、保育士不足が大きく取り上げられた。来年度は、市内の保育士養成施設 2 校で初の卒業生が誕生する。また、県外在住で出雲市に帰ることを希望しておられる方に対する情報提供を行うなど、保育士の魅力を伝えながら、保育士確保策を保育協議会と考えていきたい。 ・単年度毎の待機児童対策としては、どうしても不足するという部分については、弾力化を使って対応していきたいと考えている。待機児童を出さないという決意で進めていきたいと考えている。
<p>坂根 守 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士不足は何年も前から言われている。出雲圏域は全体的に人手不足である。解消策としては、パートから正社員にする等が考えられると思う。 ・看護師と保育士については、結婚・出産を機に退職された方が多くおられるから、掘り起こしをしていけば不足が解消できると思う。地道な努力をすればある程度は保育士を確保できると思う。 ・市と保育業界が協力し合って、待機児童を出さないと強い思いをもって、解決に向けて取り組んで欲しい。
<p>西 郁郎 委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所への入所希望者が多くて、それを受入れきれなくて待機児童が出ているということについては、保育所の代表として大変に申し訳ないと思う。

<p>肥後功一会長</p>	<p>ただ、本日示された状況説明のような、我々が判断するための市からの情報提供が少ないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全出雲市の中で待機児童が多いのか少ないのかだけでなく、どこの地域が特に多くなっているのか、どこを中心的に対応しなければならないのかという情報提供がないと、我々は判断ができない。 ・市からの意向調査は、平成 30 年度に向けて定員増をする希望があるかという聞き方でしかなかった。出雲市は平成 28 年度に 415 人も定員増をしている。定員増をするということは、経営上大きなリスクが生じ、その影響は非常に大きなものである。 ・平成 28 年度に定員増をしているのに、何となく平成 30 年度に向けて定員増をされますかという聞き方では、なかなか協力してくれる保育所はないと思う。なぜ更に定員増が必要なのかということ、きちんと市から説明されたいと対応できない。 ・現在、施設規模や保育士確保の状況は様々であるが、まだ受入れができる余裕のある施設もあると思うので、話の進め方によっては対応できるかと思っている。 ・出雲市の場合は予約入所により、0 歳児が年度中途に入ってくる。このための枠を確保している状況である。この枠で 1 歳児を受け入れれば、4 月当初において待機児童は生じないこととなる。これにより場合によっては 0 歳児を受け入れられないという影響も生じるかもしれないが、市から十分に説明され理解が得られれば、その年度においては少し 1 歳児数が膨れることにはなるが、入所希望を吸収することができるようになると思う。 ・4 月 1 日からの入所を必要としている 1 歳児を、予約入所の 0 歳児よりも優先して受け入れることは可能である。そのためには、市からの詳細な情報を、早めに保育所に提供されることが必要だと思う。 ・0 歳児枠を少し前倒して活用し、1 歳児を受け入れるという手法は、非常に有効だと思う。保育所側にとってもメリットがあると思う。詳細な調整をしていただきたい。 ・人口減が見込まれる一方で、人口増をめざすのであれば、現在待機児童が出ている地域は、集中的に人口を増やす地域であるとし、待機児童が出ないような整備をするという考え方で進めないと人口は増加しない。 ・今後生じるだろう待機児童に頑張るよりも、この地域で人口を増加させるという計画をたてることも一つの考え方だと思う。そのためには地域毎の詳細な人口推計と保育所との連携が必要だと思う。
---------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・本日欠席の玉木委員からも待機児童対策他に関してご意見が提出されているので、事務局から紹介いただきたい。
事務局	<p>(玉木委員からの意見書の読み上げ。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童問題について、出雲市が「勝てる」新たな試みが必要ではないか。 ・市長の施政方針で「子育て世代の定住、三世帯同居、地域内近居などの促進」が表明されている。負担を軽減し、子どもを保育する祖父母が増えれば、待機児童の減少につながると共に、三世帯交流も活発化すると考える。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・玉木委員のご意見について、事務局からの考えがあれば説明いただきたい。
事務局	<p>出雲市が「勝てる」新たな試みについて、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士は、責任は大きい賃金は低いという、過酷な職業であるというイメージが先行していると考えている。 ・市内にある保育士養成施設2校の学生に対してアンケート調査を行った結果、多くの学生から保育所に関する求人情報・運営方針・職場環境などの詳細な情報が知りたいという意見が寄せられた。 ・情報発信を行い悪いイメージを払拭する必要があると考えている。市のホームページで保育所等の求人情報一覧を掲載している。正しい情報を知っていただくことで、保育士確保に繋がると考え情報発信等PRを試みている。 ・保育所を退職された方への全国的なアンケートによると、職場の人間関係による離職が最も多いという結果が示されている。 ・離職防止する上で、各節目での合同研修を行う機会を作り、職場改善のため積極的な働きかけをする必要があり、研修方法について今後検討していきたいと考えている。 ・賃金面について、国が新たな処遇改善加算の制度を設けるなど、保育士の定着化を図ってきている。今後市としても、保育士の定着化に向け何らかの方策を検討していきたいと考えている。
事務局	<p>2点目の、祖父母が子育てした場合の負担軽減について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯の祖父母の多くは、働いておられるということがある。負担軽減策が金銭的な負担・支援ということなら、祖父母が家に居て子どもの保育ができるという状況であっても、身体的・精神的な負担を考えると、金銭だけで解決できる問題ではないと考える。 ・核家族化を減らし、三世帯同居を増やし、家庭での保育を推進するという

	<p>ことへの具体的な方策は、持ち合わせていないのが現状である。</p>
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・祖父母に子どもの保育をお願いしたいと思う親が多くあれば、それに対応するための施策も考えられると思う。
西 郁郎 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の定着率が悪い施設もある。就職先の職場環境が悪く一度離職した保育士は、保育現場に戻ってこなくなる。受け入れする側にも問題があると思う。各保育所で慎重に育てていかないといけない。 ・専門学校はたくさんあるが、これだけ保育士が不足している理由が分からない。賃金面などで悪いイメージがあるから、専門学校を卒業しても保育職場へ就職しない人もあるのかもしれないが。 ・定着率があまりにも低い状況に対し、市の方で指導することもできないかもしれないが、何か対策を考えていく必要があるのではないかと思う。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生の3年離職率が問題になっている。企業側にとって大きな人的な痛手となっている。これに対応するため、最近は大学でも、卒業した学生のフォローアップを継続的に行おうとしている。 ・各保育士養成学校の卒業生の進路について、市と学校が協力しながら少しフォローアップしていくという方法もあると思う。 ・資料5-1について、2号認定子どもが平成30・31年度で量の見込みと確保方策の差がマイナスとなり待機児童が生じる見込みとなっているが、この点についてはどう考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・一つには弾力化での当面の対応と、定員化を促すことへの調整をすることで、ある程度埋めていけたらと考えている。 ・2号認定の保育所利用のみで埋めていくのではなく、幼稚園の一時預かり利用へ移行することを期待している。 ・定員数とニーズに差が生じている理由が、十分に把握できていない。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度から始まる保育所保育指針と幼稚園教育要領の両方が、教育という部分で高い目標を共有する形になっている。 ・幼稚園は余裕のある中で教育をされている。一方、保育所は弾力化運用により、定員の1.2倍という少し窮屈な環境で保育をされている。同じ市民が3～5歳で違う条件下で教育・保育を受けるということになる。 ・弾力化で吸収できるということで本当に良いのか、ということ議論して

	<p>いかなければならないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育ての施策としては、待機児童を出さないようにという数字上での議論になりがちであるが、後々の学力等の問題になって出てくるので、保育・教育環境に大きな差が生じていることについて、市は見直し・検討すべき時期がきていると思う。
<p>高橋恵美子 副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士以外の職業を選択している保育学部学生は多い。労働環境や賃金の面で学生達にとって、魅力があるかということを考えないといけない。 ・職場内の人間関係や保護者との関係で悩む事がたくさんあり、責任も重い状況の中で、誰に相談してどのように支援を得られるかという部分が、定着に関わってくるのではないかと思う。そのサポートを各園に任せるばかりでなく、市として何か支援ができるかどうか検討してもらえたらと思う。
<p>肥後功一会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所で継続して勤めていくための雇用体制についてのご意見である。 ・教育学部でも同じ問題があり、勤めた学校を休職や退職する学生は、小規模校へ配属された者が大規模校よりも、その割合が多い傾向がある。小規模校は先生1人1人がたくさんの分掌を抱えており、新任の先生の相談にのるような余裕がない状態がある。大規模校は人数的に厚みがあるということは、雇用関係においては大切なことである。 ・全保育所においてこういった対応が難しいのであれば、市としての保育指導といったフォローアップ体制を整えていくことも考えられたらどうかという提言だったと思う。
<p>肥後功一会長</p>	<p>○ 地域子ども・子育て支援事業の見直し【資料1】 P10</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次は、地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策の見直しについてである。前回の会議で中間見直しを行う項目と行わない項目について検討いただいた。その結果、見直しを行うとした5項目それぞれについて、どのような見直しを行うかの提議をいただくこととする。まずは、利用者支援に関する事業について説明をお願いする。
<p>事務局</p>	<p>利用者支援に関する事業【資料1】 P11</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初計画においては、既設の子育て支援センターの内、3か所（いずも・ひらた・ひかわ子育て支援センター）で事業実施する予定であった。 ・本年度、市役所本庁舎に「子育て世代包括支援センター（母子健康包括支援センター）」を開設予定である。

<p>肥後功一会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画期間内は、このセンター機能に子育て支援サービス事業等の支援機能を加え、体制の充実を図ることとしたい。 ・今後の利用状況を踏まえ、次期計画において設置か所数の増を検討する。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初計画では3か所整備する予定であった利用者支援事業を、出雲で開所する母子健康包括支援センター機能の充実によって代えるという提案であった。 ・平田及び斐川地域における利用者支援事業については、どう考えるのか。
<p>肥後功一会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度開所するセンターの利用状況を踏まえ、他の地域への設置については今後検討を行う。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期から出産・子育て期までの切れ目のない支援を充実するということであるが、センター機能の周知をしないと活用につながらないと思う。周知方法についてはどう考えているのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センター開設時期を今後検討していき、周知方法も併せて考えていくこととしている。 ・妊娠期からの支援は既に行っており、この支援を更に強化するため、専任職員の配置等を行い、本センターを開所するものである。
<p>肥後功一会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平田及び斐川地域には、妊娠期から出産・子育て期までの切れ目のない支援を行える場所が、現在は設置されているのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠届等を各支所に配属されている保健師が対応している。 ・今後は、各支所での受付分も含め支援プランをたて、開所するセンター内で一括把握していくことを進めていく。
<p>肥後功一会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要にあるよう、身近な場所で情報提供、相談・助言等を行うことを方針とされている。本事業の本旨は、子育てしやすい環境が身近にあるから、子どもを産み・育てやすい気持ちを市民に持ってもらうことであり、子育て支援の基本的な土台となる事業である。市民の身近な所で事業を実施することをめざして欲しい。 ・利用者支援事業の本来の趣旨は、妊娠届からの母子保健を行っていくというものではないと考えるが。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援事業には、基本型・特定型・母子保健型の3つの型がある。本市は母子保健型でスタートさせたいと考えている。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この事業は、子どもを安心して育てられるための土台となる事業であることを確認いただき、出来るだけ有効活用されると良いと考える。 ・これについて何かご意見はないか。 ・次は、放課後児童クラブ事業について説明をお願いします。
事務局	<p><u>放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）【資料1】 P12・13</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数は、年々増加傾向である。 ・量の見込み見直しの考え方について、児童クラブへの入会については、各地区運営委員会で人員体制及び施設規模から、1～3年生を優先して受入れを判断していただいている。 ・1～3年生の入会希望数は、当初計画と実績に大きな乖離があるので、平成27～29年度の入会率実績を踏まえ、最新の児童推計数から入会数を算定し見直しを行う考えである。 ・当初計画では、入会率を1～3年生では約32%を見込んでいたが、実績では35～39%となっている。 ・4～6年生については、受入れ対応をしていないクラブがあるため、入会希望者数が把握できていない。本年9月に、1～5年生の保護者に対し抽出でアンケート調査を実施し、平成30・31年度の量の見込みを算出する考えである。 ・確保方策の見直しの考え方については、平成27年度以降の市設置児童クラブの拡張整備状況と、本年7月に制度創設した社会福祉法人等が運営する児童クラブ開設に伴う受入枠増を考慮し、入会可能な児童数の見直しを行うこととしている。 ・施設数についても、法人が設置する児童クラブ数を踏まえ見直しを行う。 ・P13の見直し後の表中、平成30・31年度は空欄としているが、これはアンケート調査の結果を踏まえ、第3回会議において見直し案を示し説明をさせていただきたいと考えている。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この表の見方であるが、1～3年生の実績については、当初計画値に対し年度によって約150～300人申し込みが多かったが、結果として全員受け入れができたということか。4～6年生については、受け入れきれず少し待機児童が生じたという見方で良いのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これについて、何かご意見はないか。 ・今後のニーズは、9月に実施するアンケート調査で把握されるという説明であった。アンケート結果を踏まえ、次回会議で検討することとする。 ・次は、乳児家庭全戸訪問事業についてであるが、これは子どもの出生見込数の変更に伴う修正であると思うが、事務局から説明をお願いします。
事務局	<p><u>乳児家庭全戸訪問事業【資料1】 P14</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生後4か月までの乳児がいる全ての家庭を訪問するというものである。 ・資料1の2ページにある0歳児人口が、当初計画時の人口推計に対し出生見込数が増加していることに伴い、その数値に合わせて本事業における量の見込みを変更している。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・これについて、何かご意見はないか。 ・次は、幼稚園在園児を対象とした一時預かり事業である。事務局から説明をお願いします。
事務局	<p><u>一時預かり事業（幼稚園における在園児を対象とした預かり保育）</u></p> <p>【資料1】 P15</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園における延長保育といった形での、幼稚園の時間外に預かりを行う事業である。 ・量の見込みについては、当初の見込みが過大であったことから、園児数と実施園数を考慮し、全て1号認定として見直しを行うこととした。 ・確保方策については、在園児の利便性向上を図るため、実施園の拡大を進めており、平成30年度から新たに4園で実施することを前提に見直しを見込んだ。 ・年間通じて当初計画は1日あたり30人で積算していたが、これが過大であったことから、1日あたり16人で見直しをしている。 ・見直し後の表について、当初計画時より実施園数が増になっていることと、平成27・28年度の1園あたりの平均利用人数約16人に基づき、再度積算し直し確保方策を出している。 ・量の見込みでは、平成27・28年度は実績値を記載している。平成29年度は9万人日以上を計上しているが、実際にこの程度のニーズはあり、単年度で見ると確保量が少ないという状況となっている。26園で実施すること

肥後功一会長	<p>となる平成 30 年度以降は、充足できる見込みとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何かご意見はないか。 ・幼稚園に預けておられる保護者が、このサービスによって預けやすくなるということがどの程度実現できるかである。こういったサービスがあることによって、幼稚園利用が進んだということがあれば、サービスの効率化という意味で評価しなければならない。市で今後検討して欲しい。 ・次は、就学後の子どもを対象とするファミリーサポートセンター事業について説明をお願いします。
事務局	<p>子育て援助活動支援事業（ファミリーサポートセンター事業：就学後）</p> <p>【資料 1】 P 16・17</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用実績は年々増加傾向にある。今後もこの傾向は続く見込みである。 ・量の見込み見直しについては、現在放課後児童クラブに関するサポートが全サポート数の 3 割近くを占めていることから、本年 10 月より児童クラブで開設時間延長を実施することにより、送迎サポート数の減が見込まれる。なお、時間延長を実施するクラブは、8 月末に確定する見込みである。 ・先程、児童クラブ事業においてご説明したが、9 月に 1～5 年生の保護者を対象にアンケート調査を実施し、これにより児童クラブ入会希望者数が把握できるため、これを送迎サポート数の見直しに反映させることとする。 ・確保方策見直しについては、現状として依頼されたサポートは概ね全て対応できており、これを維持するため、今後も援助会員の増員に努めることとし、また、会員の資質向上にむけた研修を更に充実していくことを考えている。 ・P 17 の見直し後の表中、平成 29～31 年度は空欄としているが、これはアンケート調査の結果を踏まえ、第 3 回会議において見直し案を示し説明をさせていただきたいと考えている。
肥後功一会長	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値が少し当初計画値を上回る形で推移している。アンケートにより新たなニーズを把握し、丁寧なサポートをしていくということになると思う。 ・これに限らず全体を通して、何かご意見はないか。
原 広治 委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 の P 11 の子育て世代包括支援センターの関連で、制度がよく変わるのでセンターと言われても何のセンターか分からない、また連絡と言われてもどこへ連絡したら良いか分からないという声が結構ある。このセンターを

肥後功一会長	<p>PRされるということだが、こういった声があることも配慮いただき機能を充実していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何らかのハンディがあって、本当に困っておられる市民、例えば外国籍の方があげられるが、件数はそう多くはないと思うので、サポートしてあげられるよう市として取り組んでいただきたい。 ・大多数を対象とする政策が主要となっており、少数ではあるが本当に困っている市民があり、そういう方へのサポートが大切だというご意見だった。市としてしっかり受け止めていただきたい。 ・現代においては、必ずしも市役所や支所に窓口があるということよりも、スマートフォンを使って情報にアクセスする機会が多いと思うので、各地区に施設を開設されないなら、バーチャル上に窓口を開設し検索しやすくし、困ったときにはアクセスできて、だれかが対応できるという形をつくることも大切だと考える。 ・最後に事務局の方から今後の予定について説明があると思うので、マイクをお返しする。
事務局	<p>4 その他</p> <p>(1) 「子ども・子育て支援事業の実施状況」に係る質問事項等について</p> <p>【資料7】、質問事項等記入用紙</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料7の記載項目及び表の見方について説明 ・本来ならば全事業について説明をすべきではあるが、時間の都合により省略させていただく。 ・質問等があれば質問事項等記入用紙に記入いただき、ファックスにて送付いただきたい。委員から質問に対する回答を作成し、会議録と共に送付させていただく。
事務局	<p>(2) 今後のスケジュール 【資料8】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日見直し（案）をお示ししたが、数値が入っていない事業について調整を行い、第3回会議において最終案に近い見直し計画（案）を再度お諮りしたいと考えている。 ・第3回会議の後に、見直し計画（案）を12月定例市議会で報告し、パブリックコメントを募集する予定としている。 ・重要な計画の変更が必要となった場合には、第4回会議を開催したいと考えている。

<p>事務局</p> <p>子ども未来部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議録については、肥後会長に確認をいただいた後に、委員のみなさまにお送りした上で、市ホームページ等で公開させていただく。 ・全体を通して何かご質問等はないか。 <p>5 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉会にあたり、子ども未来部部長の石飛がごあいさつを申しあげる。 <ul style="list-style-type: none"> ・大変に活発なご意見をいただき感謝申しあげる。 ・本会議の中心となったのは、保育所の待機児童関係であった。現時点での計画数値は、3月時点の情報しかお示しできない状況である。 ・例年年度当初（4月1日）は、定員スタートで各保育所対応をされ、5月以降は弾力化で臨時的な受け入れをお願いしていた。これは本来あるべき基本的な姿だが、国も待機児童については深刻に受け止めており、年度当初からの弾力化を連続する5年間に限り、年度初めからの定員の120%受け入れを認めるという大きな方針を示されたところである。 ・これを受けて、保育協議会を通じて各園へどこまで対応できるかということの検討をお願いし、本日示した数字ではない数字をいただいている。それによると、ある程度は待機児童解消に向かうのではというシナリオを持っている。 ・弾力化ではない本来の姿として、それを定員化してもらいたいと考えている。少子化傾向というリスクを負ってはいるが、どこまで対応できるのかということ、保育協議会を通じて再度調整をお願いしているところである。 ・保育士の定着化に向けても、特に離職率が高い1年目、そして中堅を対象に体系的にフォローアップしていく研修体制がとれないか検討しているところである。 ・玉木委員からご提案のあった新しい取り組み等、今までにない出雲市の方針を今後お示しできるのではないかと考えている。 ・保育所定員数は、9月市議会の全員協議会の場で議員のみなさまへお示しする。最終的な調整は8月末までかかるが、市議会へ報告する前に、定員数の最終版を委員のみなさまへお示ししたいと考えている。 ・児童クラブ等についても調査結果を踏まえ、第3回会議に向けて数字を全部埋めて、確保方策・基本的な考え方等の方針をお示しできるよう準備を進めていく。今後とも引き続きお願い申しあげる。 <p style="text-align: right;">以上</p>
---------------------------	--